

Stage Up

2001年

10月号

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No.104



写真：「多摩川環境ウォッチャー」(フクロウ) 有田 政一さん撮影 (幸区の小向厩舎近くで)

もくじ

- 2 特集 川崎フロンタール
- 4 生涯学習ア・ラ・カルト
- 6 ぐるーぷBOX / いま地域で学校で
- 7 まち・ひと・多面体 / くらし百景 俳壇
- 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044(733)5560(代) / FAX 044(739)0085
ステージ・アップ直通 TEL 044(733)5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp

特集

川崎フロンターレ

大きな声援を送ろう

明日のゴールをめざすフロンターレ

川崎フロンターレは全国に28あるJリーグチームのうち、川崎市をホームタウンとするプロサッカーチームです。中原区に事業所がある富士通株式会社の実業団チームとして誕生して半世紀、Jリーグチームとなって3年、昨年は念願のJ1昇格を果たしました。しかし、今年は再びJ2に戻り、31節終了後の成績は12チーム中8位、J1への再度昇格を目指しチャレンジを続けています。

フロンターレとはイタリア語で「正面」「最前線」を意味します。フロンティアスピリットを胸に常に前進するチームでありたいとの思いを込めたネーミング。今号の特集は川崎フロンターレを内外で支える人々にスポットをあてました。

見事なタックル、華麗なシュート、ゴールの歓声。サッカーの試合ではお馴染みの光景です。しかし、川崎フロンターレの活動は試合だけではありません。地元住民との交流をはかり、地域社会と一体となってサッカーの普及・振興に努めることにも力を入れています。そのために、市民との交流を図るホームタウン推進室、またサッカーの普及・育成を図る育成部があります。そして、フロンターレを応援するファン・サポーターやボランティアの皆さんもさまざまな活動をしています。そんな活動のいくつかをご紹介します。



多くの人々にサッカーの楽しさを

川崎フロンターレの育成部ではサッカーを通じて多くの市民と交流を図り、サッカーを普及させる活動をしています。特に青少年の育成には力を注いでおり、直営のスクールや、小中学校を巡回するサッカー教室などで指導をしています。

今年から中学校にコーチが出向く「サッカークリニック」を始めました。このクリニックの対象はサッカー部の生徒たちで、放課後や夏休みなどに2時間の指導を5

回受けられます。今回実施している10校のひとつ、市立川崎中学校の「クリニック」最終日に伺いました。フロンターレのコーチの指導を受けた生徒は「試合の感覚で夢中になれる」「ゲームみたいで、めちゃ楽しい」と好評です。「基礎練習もゲーム感覚で楽しみながらできる。見ているだけで勉強になります」と顧問の先生。例えばパスの練習は単に向かい合ってボールを蹴り合うのではなく、実戦のように邪魔が入ったり、パスの相手との距離がさまざまだったり状況に応じた判断が要求されます。

5日間で「まわりに目がいくようになった」「フェイントがかけられるようになった」と着実な成果が表われています。コーチの佐藤さんは「楽しい練習にすることが一番。楽しみながら正確なプレーと判断力が身につくように練習を工夫しています」と話していました。

◆スクールのご案内

*下野毛スクール 高津区下野毛3-9-1

対象は小学生の男女

*麻生スクール 麻生区片平1517-10

対象は幼稚園年長から中学生までの男女

問い合わせ フロンターレサッカースクール事務局

☎044(739)2080 (担当：佐藤、大場)



真剣に練習する川崎中学校サッカー部の生徒たち

活躍しています！ボランティア

ホームゲームや地域イベントはボランティアの力無しにはできません。ボランティアは登録制で現在高校生から70代までの約250人が活躍中です。ある日のホームゲームでボランティアの皆さんの仕事を追ってみました。



試合開始の3時間半前には紺色のユニフォームに着替えて集合。すぐに場内イベントのリハーサルを始めます。マスコットの「ふろん太君」を演じるのは大仕事。道具や機材の運搬もてきぱきと進めます。開門後は、チケットもぎり＝写真上、スタジアムの案内、横断幕の設置など。観客が続々来る頃にはゲートで子どもたちにフェイスペイント＝写真下。「ふろん太君」はあちこちで愛嬌を振りまいています。ハーフタイムにはビニール袋を持って「ごみの回収をします」と観客席を回り、試合終了後も選手行進の誘導や横断幕の撤去。試合レポートや選手のコメントを載せて無料配布している「週刊フロンターレ」の取材もボランティアの大事な仕事です。試合日以外にもポスターやイベント用大道具の作成、ポスター貼り、駅での「週刊フロンターレ」の配布などさまざまな活動を通してチームを支えています。



ボランティアの声をお聞き下さい

60代 女性

「中原区のお知らせでボランティア募集を知りました。特にサッカー好きではなかったけれど何かボランティアをしたかったので登録しました。この体験は他でも生かしたいと思っています」。

高校生 男性

「イベントの準備や片づけをしています。普段の生活では体験できないことができるので楽しんでいます」。

学生 女性

「マスコットのふろん太君の手伝いをしたくてボランティアを始めました。汗だくになるしとても疲れますが、試合に負けても小さな子どもたちが「頑張ってるね」と言ってくれるのがうれしいです」。

50代 女性

「私は中原区に住んでいるので、地元のチームとして自分たちの手で根付かせたいと思い応援しています。入場者はまだ少ないので、試合を見に来てくれた人には本当に心からありがとうと思うようになりました」。

◆ボランティアは現在も募集中

応募資格は高校生以上。食事、交通費の支給とユニフォームの貸与があります。

問い合わせ 川崎フロンターレボランティア係

☎044(711)0137

フロンターレを応援する仲間たち

フロンターレの応援はひとりでももちろんできます。スタジアム観戦には行かなくても、試合結果に一喜一憂しているファンもいます。一方で、フロンターレを応援する者同士手を繋ぎ、より力強い応援をしようというグループや組織もあります。いくつかを紹介しましょう。



手拍子と大歓声を送ります
— 等々力競技場にて —

◆ファンクラブ

川崎フロンターレが運営。会員はチケットやグッズの割引購入、イベント参加、会報誌の購読などできます。

☎0570-001212

◆川崎フロンターレ市民後援会

スポーツ振興、フロンターレと市民の連帯を深める事を目的に設立された川崎市の市民組織。会員はチケット割引購入、イベント参加、会報誌の購読などできます。

☎044(431)0507

◆川崎フロンターレサポーターズネットワーク (FSN)

スタジアム内外での積極的なサポート活動の基盤となるネットワークを作るために、サポーターたちが自主的に設立した団体です。サポーターズミーティングやホームページを通じて、サポートの仕方や試合の観客動員数を増やすための提案や活動を行っています。

フロンターレの歩み

- 1955年 「富士通サッカー部」として設立される。日本サッカーリーグ、ジャパンフットボールリーグなどで活躍。
- 1993年 Jリーグ開幕。
- 1997年 Jリーグを目指しプロ化。チーム名を「川崎フロンターレ」に改称。
- 1999年 J2加盟。リーグ優勝を飾る。
- 2000年 J1昇格。しかし、リーグ戦では最下位。
- 2001年 J2でプレー中。

●まなぶ●

インターネット情報スペース

「生涯現役クラブ」からのお知らせ

「川崎市生涯現役クラブ」は、インターネット上で情報の交換や会員相互の交流を図るために開設されているネットワークスペースです。初心者の方でも使いやすい画面構成になっておりますので安心です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。(^ o ^) /

★NEWS 1★……書き込みの「部屋」リニューアル

今までの「部屋」に加えて「スポーツ&アウトドア」「旅・食べ歩き」「音楽・芸術」が増えました。

インターネット上で語り合ってみませんか? (^-^)

また、「こんな部屋がほしい!」「ネット上で趣味の仲間づくりをしたい!」「私たちのサークルを紹介してほしい!」「こういうイベントを計画してほしい!」など、新しい「部屋」の増室希望やお知らせ情報の掲載など、皆さんからの希望も受付中です。

出来る限りご希望に添えるようがんばりたいと思いますので、どしどしご意見をお寄せ下さい! (*^-^*)

「部屋」: みんなで意見を
書き込んだり、情報を交
換し合ったりできる書き
込みスペース

★NEWS 2★……楽ばそくらぶ

生涯現役クラブの「サークル活動の部屋」の中に新たなクラブが出来ました。「楽々ばそこんくらぶ」略して「楽ばそくらぶ」です。「パソコン講習は受けたけどそれで終わってしまった」「いろんなことやりたいけど詳しいことがわからない」「パソコンには詳しいけれどパソコン仲間がいないからさびしい」などなど……。

「楽々ばそこんくらぶ」は「楽しく」の「楽」、「カンタン」の「楽」、そんな気持ちで発足した気軽なクラブです。

みなさんの入会をお待ちしています

- ◆対象: パソコン初心者～上級者まで興味がある方ならどなたでも。パソコンの技術をお持ちの方も大歓迎!
- ◆活動内容: パソコンに関する情報交換(ホームページ上&集会)、講習会、パソコン勉強会、会員相互の質問&サポートなど
- ◆会費: 無料(集会・講習などの出席時のみ実費)
- ◆入会方法: 「川崎市生涯現役クラブ」のホームページから「楽ばそくらぶのご案内」をご覧ください。
「生涯現役クラブ」<http://www.ageless-net.com>

問い合わせ 学習事業室パソコン講座係

☎044(738)1561

生涯学習ア

●はぐくむ●

2003年 高津区にオープン
子どもの活動拠点「夢パーク」

「仮称・川崎市子ども夢パーク」は、今年4月に施行された「川崎市子どもの権利に関する条例」を具現化する施設として、高津区の津田山駅近くに建設されます。

基本構想では「夢パークは遊びながら、考え、作っていく子どものための活動拠点」と位置付け、オープン時は子どもが安全に活動できる基本的なものだけを整備し、その後に子どもが活動しながら作っていくという計画です。

計画策定にあたり川崎市では、「子どもの権利条例」の基本精神を生かし、子どもたち自身がどんな施設にしたいかを考えるワークショップや、市内の小・中学校の児童・生徒を対象にアンケート調査を行うなどして、子どもたちの意見を反映させるよう図ってきました。

主な施設は、約9900平方メートルの敷地にイベントスペース、創作スペース、学習交流スペース、スタジオ、ログハウスなどの建物と、広場、森、せせらぎなど作る予定です。

問い合わせ 教育委員会生涯学習推進課 ☎044(200)3303

川崎市子どもの権利に関する条例—その6
—基本となる子どもの権利観—

子どもの権利条例を貫く基本的な考え方は、条例の前文に位置づけられています。

前文は七つの部分からなり、初めに一人の人間としての子どもの尊厳について記述し、子どもを権利の全面的な主体者として位置づけています。

次に、この条例で考える権利と責任の関係を整理し、四段落目で子どもをおとなのパートナーとしてとらえ、五段落目で地球市民としての子どもの役割をおさえています。

そして、六段落目で権利保障の意義について確認したうえで、最後の七段落目で子どもの権利保障を進める市と市民の決意を宣言する形をとっています。

この前文では、世界のほとんどの国が批准している子どもの権利条約をベースに、「子どもの最善の利益の確保」「差別の禁止」「子どもの意見の尊重」などの国際的な原則が踏まえられています。

また、多くの市民・子ども、関係者との意見交換や審議会の中で議論した「権利と責任」の関係については、権利行使のなかで子どもは他の者の権利を尊重する力や責任を身につけることができ、自分の権利と同様に他の者の権利を相互に尊重しあうことが権利保障の取り組みでは欠かせないという視点でまとめられています。

問い合わせ 市民局人権・男女共同参画室 ☎044(200)2344

ラ・カルト

●たのしむ●

「体育の日」スポーツ施設を無料開放

10月の第2月曜日の8日は「体育の日」です。川崎市では、各スポーツ施設を無料開放し、さまざまな催しを行います。みなさん誘い合わせて参加してみませんか。

ところで、「体育の日」は、祝日法が改正される前は10月10日でした。この「体育の日」が制定されたのは1966年です。1964年に日本で初めて開催された東京オリンピックの開会式が行われた日を記念してのことです。それでは、なぜオリンピックの開会式がこの日になったのでしょうか？ 実は日本の気象観測史上いちばん晴れる確率が高かったというわけでこの日になりました。

「体育の日」の目的は「スポーツに親しみ、健康な心身をつちかう」ことです。この日をひとつの契機にして、健康や体力に関心を持ち、自分にふさわしいスポーツを見つけ、親しんではいかがでしょう。催しの詳細は各施設にお尋ねください。

問い合わせ 川崎市体育館…☎044(200)3255
幸スポーツセンター…☎044(555)3011
石川記念武道館…☎044(544)0493
とどろきアリーナ…☎044(798)5000
高津スポーツセンター…☎044(813)6531
麻生スポーツセンター…☎044(951)1234

●さがす●

仲間の輪をひろげませんか

「ふれあいネット」に登録を

学習情報室には「何かしてみたいが、どんなサークルがあるの?」「趣味を生かしたサークル活動に参加したい」など、多くの問い合わせが寄せられます。このような時、「ふれあいネット」の「団体・グループ」情報から探すようお勧めしています。

現在、「ふれあいネット」に登録しているグループは342件です。情報をより充実させ、みなさんのさまざまなご要望に応えられるよう、「団体・グループ」情報への登録をお願いします。

登録は、所定の調査票に記入していただくだけです。その調査票をもとに学習情報室で入力すると、グループの活動情報が「ふれあいネット」で簡単に見ることができ、仲間づくりにも役立ちます。

調査票は「ふれあいネット」のある市民館やとどろきアリーナなどのスポーツ施設にも置いてあります。

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

ハート & ハーモニー Vol.16

インフルエンザはカゼの内

日本でインフルエンザが流行するのは1～2月頃ですが、感染したときの重症化を防ぎたい人は10～11月には予防接種を始めます。接種は1回または2回で、感染すると危険が大きい幼児や高齢者には特に勧められています。インフルエンザの流行は、社会に多大な健康損失をもたらします。個人の重症化はワクチンで防止できますが、流行をコントロールすることはどの程度可能なのでしょうか？

厚生労働省が作ったポスターに「インフルエンザはカゼじゃない」とあります。典型的なインフルエンザは1～2日の短い潜伏期の後に、39度前後の発熱とともに頭痛、筋肉・関節痛などの全身症状と、喉の痛みや咳などの上気道の症状が現れます。まさに「カゼじゃない」と実感するでしょう。決して甘く見てはいけませんし、このウイルスは感染力が大変に強いのも特徴です。人込みの中でなくても、くしゃみや咳で飛沫するウイルスは5～10mも飛びますから、厚く重ねたタオルで口を覆わない限り、ウイルスは周囲に放出され、乾燥した空気の中では何日も感染力を持ったまま空中を漂っています。

インフルエンザにかかった人がみな同じように発症するのであれば、話は簡単です。「患者のいないところにウイルスはいない」と考えた対策が取れます。この対策の結果1979年に天然痘根絶宣言が出されました。しかしインフルエンザではこれで良いとは考えられず、むしろ天然痘とは正反対だと言えます。

インフルエンザの診断は簡易キットでできるようになりました。結果が陽性であればA型またはA・B型両方に効果のある抗ウイルス薬を投与して、重症化を防ぐこともできるようになりました。発病前の薬の予防投与も、条件を守れば有効であると考えられます。ところがこの中で判ってきたことは、軽いカゼ症状の人からもインフルエンザウイルスが検出されるということでした。免疫状態などによって、インフルエンザは普通のカゼの顔をして人から人へ渡り歩いているということです。流行の阻止は一人ひとりの「移さない」意識にかかっているのです。

カゼ症候群を起こすウイルスは、インフルエンザ以外にも数百あるといわれます。咳や痰が出るような病気を次の人には移さないようにする、という意識を「咳はタオルで口を覆う」「痰や唾はみだりに吐かない」という行動で実現する必要があります。

(健康教育担当 スポーツドクター 野田晴彦)

ぐるーぷBOX

身近な高齢者を支え手伝う

「あけびの会」

「あけびの会」(加藤順子代表、会員31人)は、高齢者や障害者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう“ちょっとしたお手伝い”をするボランティアグループで、川崎区の昭和町を中心に活動しています。会のモットーは「できる時に、できる人が、できる事を」ですが、病院への送迎や介助、電気器具の取り替え・収納、買い物、ゴミの搬出、庭木の手入れなどの依頼に、速やかに対応して「痒いところに手が届く」と喜ばれています。

同会の誕生は2000年4月。市の健康福祉局生涯現役支援センター主催「シニアリーダー養成講座」の受講者で発足しました。昨年1年間に受けた依頼は64件でしたが、しだいに口コミで伝わり、今年は4～7月の4ヵ月間ですでに48件、活動範囲も昭和町に隣接した5町会に広がりました。

夏のある日、活動に同行しました。この日の依頼は、退院されたばかりで体調がすぐれない一人暮らしの方からで、週に一度の食料品の買い出しでした。「こんにちは。お変わりないですか」と会員二人で依頼者のお宅を

訪問。メモとお財布を預かり、お店へ出かけます。米や牛乳、野菜など数品を買って戻り、レシートとおつりを渡してお手伝いは終わりました。

会員の声「無理せず、自然体で活動できるところがいいです。ささやかなお手伝いでも『ありがとう、助かりました』と言われると、少しは役に立ったんだなとうれしくなります」。

◆活動日：随時、定例会は偶数月の16日

◆場 所：定例会は昭和町町内会館

◆連絡先：☎・Fax 044(277)4949 加藤さん



いま地域で学校で

昔の知恵を学びふれあう

—川崎小学校の児童と高齢者の交流—

川崎小学校(山木利之校長、児童数448人)では、校舎内に高齢者のデイサービスセンターが新設されて以来、児童と高齢者が一緒に過ごしている光景を目にします。

この施設は、川崎市が学校の余裕教室を改造し「川崎小学校ふれあいデイサービスセンター」(特定非営利活動法人川崎さわやかヘルプの運営)として昨年6月にスタートさせました。現在90人の高齢者が毎日入れ替わり



10時から15時までここで過ごしています。子どもたちはいつからともなく学校の休み時間にセンターに来て遊ぶようになり、ごく自然に交流が生まれました。

同校では、このような環境を授業に生かし、生活科や総合的な学習の時間に「昔の遊び」や「編物」をお年寄りから教えてもらいました。また、3年生が交流会を企画し、お年寄りを招待してダンスやゲームなどを一緒に楽しんだこともあるそうです。

ある日の午後、川崎小学校を訪ねると、センター内に2年生の児童がいました。生活科の時間に、住んでいる町を調べる「まちたんけん」をしたので、調べたことをお年寄りに聞いてもらおうと来ていたのです。「下並木のお祭りのおみこし」「お寺」「消防署」などの様子を写真や絵を添えたレポートにし、得意顔で発表していました。お年寄りたちは「よいことを見つけたね」「大きい声でしっかり発表できましたね」とにこやかに声をかけ、子どもたちから渡された用紙に感想を書いていました。

お年寄りの一人は「元気のよい子どもたちと話をしていると若がえったような気がします」と言っていました。

山木校長は「このようなふれあいは子どもたちの人生に大きな意義があります。今後もこうした教育活動を推進していきたい」と話していました。

まち・ひと・多面体

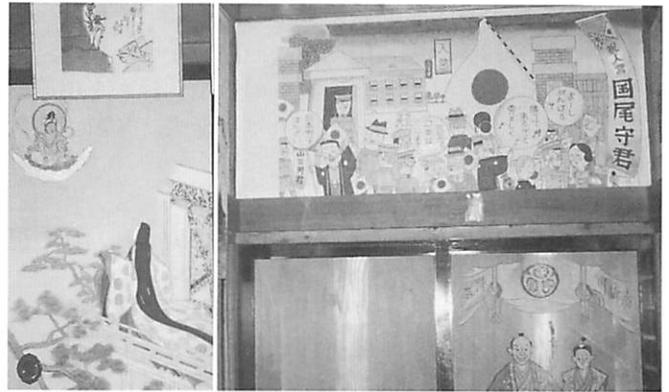
時代風俗・世相にふれる

「日本漫画博物館 まんが寺」

多摩川と府中街道には生まれた中原区の一隅に等々力緑地があります。隣接する春日の杜にある常楽寺は「日本漫画博物館」、別名「まんが寺」として親しまれています。大正から昭和に活躍した田川水泡や横山隆一などの漫画、つまり“省略や誇張により笑いやペースを誘う絵”が本堂を飾り、寺自体が博物館となっているのです。

馬車に乗ったシルクハットの紳士、戦闘機と兵隊さん、稲穂の中に佇む紺緋の子どもたちなど時代風俗やなつかしい風景。そして、田中角栄や佐藤栄作など政治家の顔。これら明治・大正・昭和の世相を映した作品を本尊の前で鑑賞できます。奥の部屋には杉戸に描かれた十二支も。襖紙や壁に直に描いた大きなものから絵馬や色紙の小品まで所有品は約5000点。漫画家から届いた色とりどりの年賀状も壁面を飾っています。

本堂はおおよそ300年前に建立されたものですが、昭和42年に解体・修復工事が始まりまして。この年は明治100年にあたり、それを記念して当時の土岐住職と親交



のあった漫画家が作品を奉納したのが、まんが寺誕生のきっかけです。土岐住職が亡くなられた後、10年ほどは公開を控えていましたが、昨年8月に谷口住職の代になってから、再び見学できるようになりました。境内には豊かな緑に囲まれて徳川無声筆の筆塚や岡本一平の自画像の石碑も建っています。

問い合わせは、☎044(766)5068の常楽寺まで。見学は随時(ただし、仏事の時は見学を遠慮していただきます)、団体の場合は事前連絡を。無料。場所は中原区宮内4-12-14、市営・東急バス薬師前下車徒歩2分。

くらし百景

俳壇

坂句会

月明やわが心野に遊びをり しづけさや紅葉を散らす露天風呂 初紅葉ダイエットまだ続けをり 一枚の音の大げさ朴落葉 五箇山にささら聞きある秋思かな 露時雨白神の森入りがたし 古墳への木階朽ちぬ返り花 東大寺鴟尾よりつるべ落しかな 新宿や裸体画をみて秋暑し 秋草を活け大壺の隠れけり 爽やかに乗りたる馬も老いみたり 苦学士の夜業明けたるギターかな	濱 田 冬	花 岡 孝 子	中 島 悦 子	友 納 緑	鈴 木 千 代	黒 田 美 智 子	木 村 美 津 子	木 村 ふ み 子	上 條 信 子	小 竹 万 里 子	大 山 喜 恵	内 田 祥 江
---	-------------	------------------	------------------	-------------	------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	------------------	-----------------------	------------------	------------------

*「松風句会」として十三年、昨今「坂」句会と改名して益々意気盛んです。年齢は五十代から七十代、毎月一回菅生分館で句会を開いています。俳誌「鷹」に投句するほか、他のカルチャースクールに遠征する人もいます。心掛けていることは、物に感動する柔軟な心、自分をうたう、リズムを大切に、類想を避ける…など。指導者は「鷹」同人の坂田はま子氏です。

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●第2回あなとうわ合同朗読会

10月5日(金)13時開演、中原市民館。愛をテーマに、金子みすずの詩や「日本一短い父への手紙」ほかを中原朗読会、麻生朗読の会など8グループが発表。無料。☎(900)2916の吉澤さん。

●第4回津田山コーラス演奏会

10月7日(日)14時開演、高津市民館。平均年齢74歳の混声合唱団の発表=写真は前回。指揮は金星かおる。第1部「心に残る愛唱歌」、2部はミュージカル「アニーよ銃をとれ」より。無料。☎(833)2639の村田さん。



●川崎市民交響楽団第154回定期演奏会

10月6日(土)18時半開演、川崎教育文化会館。曲目はモーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」序曲、ブラームス「交響曲第2番」ほか。500円。☎(045)753)8578同事務局の森さん。

●川崎市民プラザ 子どもミュージカル

10月13日(土)11時と15時の2回公演。劇団東少による「眠れる森の美女」。先着各500人。無料。☎(888)3131。

●さいわい寄席

10月21日(日)11時と14時。幸文化センター。東海道400年を記念した創作落語など。桂歌助「川崎宿物語」、清流亭いしあたま「六郷の渡し」、三笑亭恋生ほか。無料。当日直接。☎(511)6901の深見さん。

●川崎市民プラザ 紅葉寄席

11月17日(土)18時開演。出演は、三遊亭円窓、玉川カルテット、林家八笑ほか。前売り1800円。チケットはプラザフロントで発売中。☎(888)3131。

●東芝科学館①わくわく実験ショー～力について

②ガリレオ工房科学実験教室～音の姿を見つけよう

①は10月13日(土)。体を使っていろいろな力を体験する。
②は10月27日(土)。手作り楽器を使って音の伝わり方の実験をする。時間は①②共10時と13時半。無料。定員①各250人②は小学4年以上各50人。要予約。☎(549)2200。

●南身館フェスティバル

11月3日(祝)4日(日)10時～15時。場所は川崎市南部身体障害者福祉会館。バザー、福祉作業所の製品展示・即売、模擬店など。☎(244)3971。

●北身館フェスティバル

11月10日(土)10時半～14時半。場所は北部身体障害者福祉会館。バザー、模擬店、ボランティアサークルミニ体験ほか。バザーの提供品受け付け中。☎(811)6631。

●川崎市民プラザ 囲碁大会

11月3日(祝)9時開会。対象は市内在住・在勤・在学の200人、抽選。参加費は大人1000円、中学生以下500円。クラス別トーナメント方式。クラス区分(棋力)はA…5段以上▽B…3～4段▽C…初段～2段▽D…1～3級▽E…4級以下。☎10月11日(木)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、棋力を記し〒213-0014高津区新作1-19-1「市民プラザ囲碁大会」係。☎(888)3131。

●糖尿病週間特別講演会

10月27日(土)13時から、川崎市産業振興会館。「進化と神話からみた性・老・糖尿病・死」と題し、荻原通・平塚市民病院内科部長が講演。先着350人。無料。当日直接。☎(233)5521の川崎市立病院内科の小花さん。

●プラザ橋～講演会「美しさを求めて生きる」

10月25日(木)13時半から。講師はニットデザイナーの薔那子。先着100人。無料。☎10月18日(木)9時から電話で。☎(788)1531。

●絵手紙入門教室

10月31日～11月28日の毎水曜14時から、全5回。サンライフ川崎。受講料3150円。先着30人。☎(344)1777。

●簿記2級能力検定準備講座

10月25日～来年2月7日の月・木曜18時15分から、全25回。労働会館。先着35人。受講料22000円、教材費1700円。☎10月7日(日)9時から電話で。☎(222)4416。

●日本女子大学2001年度後期公開講座

10月開講の、暮らしの安全安心作法学▽もっと知ろう身近な高分子▽初級中国語などの受講生を募集。場所は同大学西生田生涯学習センター。詳細は☎(945)3323。

●川崎市民ミュージアム企画展

東海道ー日本橋、そして川崎宿へ

10月21日(日)まで。日本橋から川崎宿までの名所や名物、川崎宿の実態や景観を、屏風絵や錦絵などの絵画資料や古文書から紹介。一般600円、大高生300円、中学生以下と65歳以上は無料。☎(754)4500。

●スナック喫茶琴～作品展①写真②魚拓

①は10月1日(月)～13日(土)。立岩祝治の作品(富士山)。
②は10月15日(月)～11月3日(祝)。林武雄つり会の作品。☎(544)0507。

◆お知らせ◆

情報コーナー「イベントパーク」へ掲載ご希望の方は、開催月(事前申し込みがある場合は、その申し込み日)の2ヵ月前までに情報をお寄せください。